

社会性報告

社会とのかかわり

大和証券グループは、企業市民として、社員のボランティア活動への参加や社会福祉事業の支援、文化・芸術活動への協賛活動、財団やNPO等を通じた国際社会への助成活動など、さまざまな取組みを行っています。

考え方・基本姿勢

大和証券グループはよき企業市民として社会と向き合い、NPO/NGOなどと協働し地域とともに持続可能な発展を目指した取組みに継続して取り組んでいくことが重要だと考えています。そのため以下の4つを主な企業市民活動分野として、海外での取組みも含めさまざまな活動を展開しています。

1. 経済・金融分野での教育・研究活動
2. ボランティア活動を社員に広める活動
3. 文化・芸術への協賛活動
4. 財団・NPO等を通じた地域・国際社会への助成活動

大和証券グループの企業市民活動と支出金額

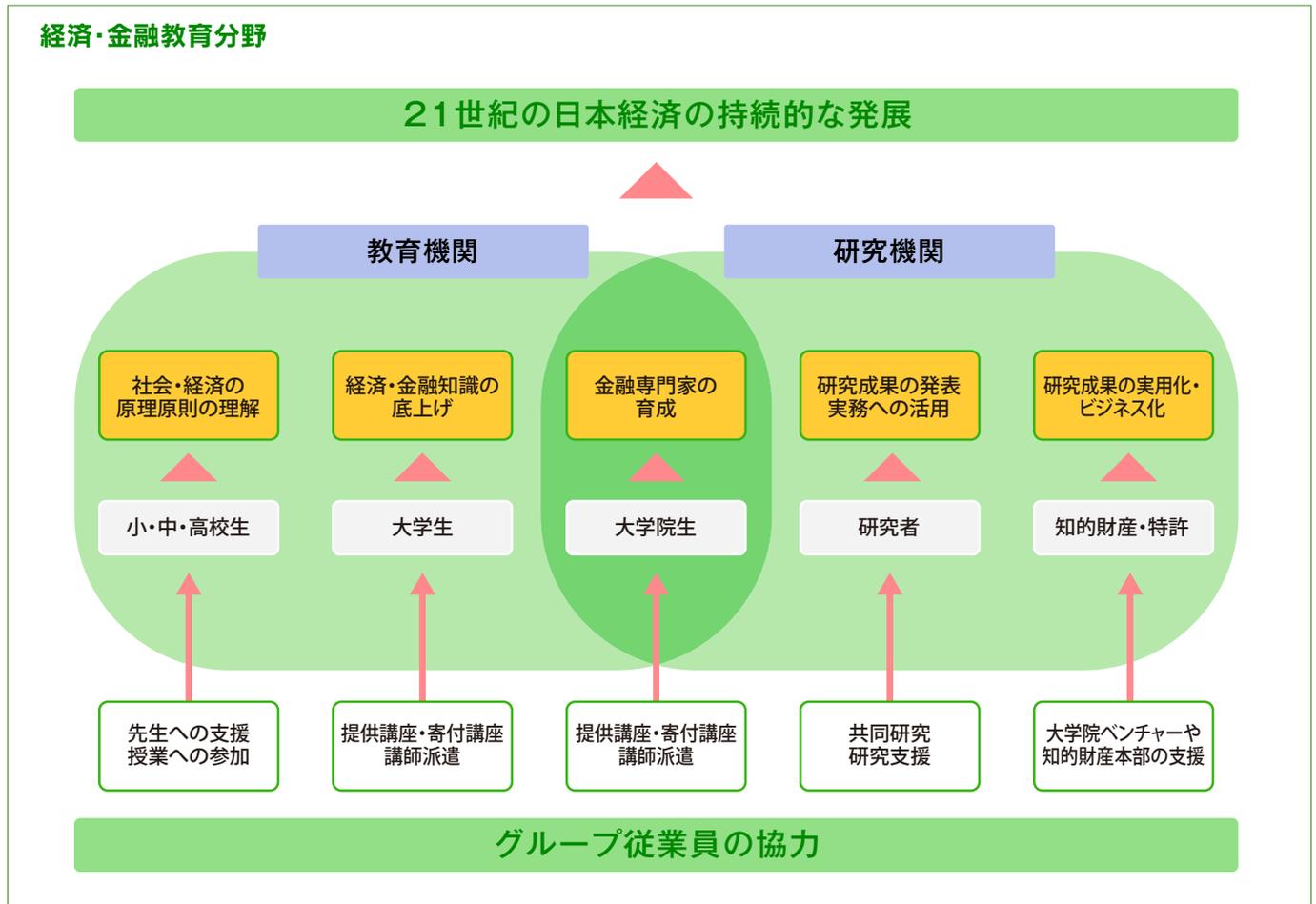
	活動の分野	2009年度の主な活動	支出金額(単位:千円)			
			2007年度	2008年度	2009年度	
1. 経済・金融分野での教育・研究活動	小・中・高校生向けの取り組み	スチューデント・カンパニープログラム(SCP)、ファイナンス・パークなど	225,524	214,283	163,767	
	産学連携、大学・大学院、一般向けの取り組み	寄付講座、シンポジウム・フォーラム等への協賛など				
2. ボランティア活動を役員に広めるための活動	自主企画	高尾山での環境体験学習、手話講座など	6,471	6,475	4,962	
	一般企画	「環境講座」イベント運営など				
3. 文化・芸術事業への協賛活動	文化芸術振興にかかわる協賛活動	将棋・囲碁のインターネット棋戦「大和証券杯」、「大和証券グループPRESENTS 西本智実マラー第5番 With ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団」特別協賛など	560,000	530,000	313,500	
4. 財団・NPO等を通じた地域・国際社会への助成活動※	財団	大和証券福祉財団	357,655	324,424	246,685	
		大和証券ヘルス財団				保健、医療、福祉関連の助成
		大和日英基金(英国の財団)				日・英の相互理解の促進、留学生の受け入れ
	助成プログラム	大和証券グループ津波復興基金	2004年12月に発生したスマトラ沖地震・インド洋津波による被災地への継続的な復興支援			
		ダイワSRIファンド助成プログラム	人間の「いのち」にかかわる分野で支援活動を行うNPOの人的費やスタッフの教育費を助成			
		ダイワ・エコ・ファンド助成プログラム	ダイワ・JFS青少年サステナビリティ・カレッジ、ダイワCI生物多様性保全基金			
被災支援、諸会費、ほか		各種加盟団体への会費ほか				
合計			1,149,650	1,075,182	728,914	

※大和日英基金・助成プログラムの助成額を加算したことにより、過年度データを修正しています。

1. 経済・金融分野での教育・研究活動

大和証券グループは、証券ビジネスを通じて培ってきた経済・金融分野の知識やノウハウを活かし、次世代を担う若い世代に、経済・金融教育を通じて将

来を切り拓く力を身につけてもらうことを目的に、産学連携や、中学・高校における教育プログラムへの支援活動などを行なっています。



青少年向け経済教育団体「一般社団法人ジュニア・アチーブメント日本」との主な協働プログラム

(1) ファイナンス・パーク (生活設計体験プログラム)

ジュニア・アチーブメント日本が、中学・高校生向けの生活設計実技演習の場として、2005年6月に東京・品川に開設。施設の開設資金と出店費用ならびに人的派遣を大和証券グループが特別協賛しています。2007年1月には京都にも開設。ファイナンス・パーク全体では、2009年度末までに累計で18,721人の生徒が自ら考えたとともに意思決定し、行動するプログラムを体験しました。



(2) スチューデント・カンパニー・プログラム (会社経営体験プログラム)

高校生が学校のなかに会社を設立、資本金の調達から人事・会計・生産・販売など、実際に近い会社経営を体験する約半年間のプログラムです。大和証券グループは、2003年度から京都の立命館高校に協力。2009年度までに社外取締役として延べ17人の社員を70回以上派遣して、財務資料の作成や会社経営等のアドバイスを行なっています。今までに151人の生徒が正規の科目として、会社経営や世の中の仕組みを学び、意思決定の難しさや結果責任の重さ、リーダーシップやチームワークの大事さなど、社会で生きていくための基本的資質を身に付けています。



(3) 小・中・高校教員のためのグローバルリーダーシップ・フォーラム

ジュニア・アチーブメント日本が主催する、小・中・高校教員向け研修プログラム。各方面から招聘した

方々の講演やパネルディスカッション、事例研究を通じて、グローバル経済の現状に触れていただき、21世紀における教育のあり方をもとに考える場です。大和証券グループは2003年から2007年までのフォーラムを後援、また、関連行事にも継続的に協力しています。2009年度までの累計で2,732名の教職員らが参加しました。

(4) 日本経済教育協議会

(JCEE: Japan Council for Economic Education) 学校教員のための経済教育プログラムの提供を目的に、2009年1月に設立されました。大和証券グループは、メインスポンサーとなり、他の有力企業7社とともに、設立基本ファンドの提供等を通して支援を開始しました。ジュニア・アチーブメント日本や全米教育協議会(NCEE)とのパートナーシップの下で、日本の学校現場に則したプログラムの実践を目指しています。

2009年度は、経済・金融の実技演習型テキスト「人生は選択の連続だ!」を高校の現職の先生、ボランティアの方々とともに、企画・編集をしました。今後は、テキストを全国に普及するためのサポートもしていきます。

→特集編 重要課題2>健全な金融・資本市場を發展させ次の世代につなげる もあわせてご覧ください

ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジ

大和証券グループでは、「ダイワ・エコ・ファンド」の販売・運用によって得られた収益にもとづいた寄付をもとに、NPOのジャパン・フォー・サステナビリティ(JFS)とのパートナーシップによる学生向けの連続寄付講座を開催しています。

当講座は年間それぞれのテーマを定め、4年間でサステナビリティの全体像が把握できるプログラムとなっています。毎月行われる講義では、大学教授、研究者、企業経営者、実務家、NPO/NGO、行政担当者など各分野の先端で活躍する方々が、サステナビリティに関連する考え方や実践を学生にわかりやすくつたえます。講義は英訳され、JFS

のサイトを通じて世界191カ国・地域に発信されています。

講義後に行われる「サステナブルなお取り寄せ」紹介のコーナーでは、フェアトレード商品や、社会福祉施設でつくられたお菓子などの用意もあり、受講者の楽しみのひとつとなっています。2010年で4年にわたるプログラムは終了しますが、今後も、金融・資本市場を担う学生に向けて、各種講座や、勉強会を開催したいと考えています。

ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジ

<http://www.japanfs.org/ja/pages/027971.html>

2009年度の主な活動

■ 経済・金融の実技演習型テキスト「人生は選択の連続だ！」の企画・編集に参画

大和証券グループは、日本経済教育協議会(JCEE)のメインスポンサーとなり、経済・金融の実技演習型テキスト「人生は選択の連続だ！」の、企画・編集を支援しました。

→特集編 重要課題2 >健全な金融・資本市場を発展させ次の世代につなげる もあわせてご覧ください

■ 東京大学主催のシンポジウムへの協賛

大和証券グループは、2009年10月26日に東京大学の安田講堂(東京・文京区)にて開催された、東京大学大学院経済学研究科付属日本経済国際共同研究センター主催の「金融危機後のアジア経済の展望」をテーマとしたシンポジウムに、産学連携の一環として協賛しました。シンポジウムでは、経済学の権威による講演や、「世界的金融危機

はアジア経済や日本経済に何をもたらしたか？」をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネルディスカッションには、大和総研の理事長 武藤敏郎が参加しました。

■ 東京大学 アントレプレナー道場と北京大学との交流会への協賛

東京大学アントレプレナー道場は、大学発ベンチャー起業家育成に対する支援・サポートを行うもので、2004年度より大和総研が運営に協力しています。

2010年1月には当社グループ協賛のもと、北京大学との交流会が開催されました。交流会では、両大学のビジネスプランコンテストで勝ち残ったチームによるワークショップやプレゼンテーション、また東京大学発ベンチャーの紹介等が行われました。

2. ボランティア活動を社員に広めるための活動

大和証券グループはボランティア活動を社員に広めるための活動を行なっています。社員がボランティアをはじめとする地域の活動などに参加し、経験することは、視野を広げ、新たな価値観をつくることにつながり、仕事や人生にもよい影響をもたらすと考えています。

ボランティア活動は、大和証券グループが自主的に運営する自主企画の活動と、地域社会やNPOと協

力して開催する共催企画があります。社内イントラネットで情報発信をするほか、ボランティアに対する表彰制度を設けるなど、社員がボランティア活動に参加しやすい環境を整えています。今後も外部のNPOと連携をしながら、より多くの社員が企業市民活動に参加できる環境づくりを目指し、社内情報発信の充実と活動機会の拡大に努めます。

2009年度の主な活動

■ 手話教室の開催

2000年より自主企画活動として東京、大阪、名古屋地区で手話教室を開催しています。最初は社員向けに開催していましたが、現在では社内にとどまらず地域の皆様にもご参加を呼びかけ、2009年度は全国で2,244人の方にご参加いただき、手話の輪が広がっています。近年では、手話の技能検定を受験するなど、より高いレベルを目指して受講する人も増えています。

■ 「環境講座どんぐりから知る生物多様性」開催

大和証券グループを含む、6社が共催で身近な自然から環境問題を学ぶ、「どんぐりキューブ」をつくる体験講座を三会場(東京:2009年8月27日、名古屋:2009年11月5日、大阪:2009年11月6日)で開催しました。当社グループからは、25名が参加し、環境問題における里山の役割や重要性、生物多様性などについて学びました。

ボランティア表彰

大和証券では、役職員のさまざまな活躍に対して表彰を行う社長賞制度を実施しています。2007年度からはボランティア表彰を設け、地域でボランティア活動に継続して取り組んでいる社員・グループ

を年2回、表彰しています。また、2009年度下期には、大和証券キャピタル・マーケットズで行われているPassion for the Best賞でも、社会貢献活動表彰を行いました。

大和証券ビジネスセンターの美化活動

大和証券ビジネスセンターでは、企業市民活動の一環として、きれいな街にすることは、地域への貢献であるとの考えのもと、2008年より、本社ビル付近から東陽町駅までの清掃活動を実施しています。朝8時から8時20分までの業務開始前の時間に、月1回程度のペースで行い、全社で展開し

ています。毎回、自発的に40名程度の社員が参加し、定例行事としてすっかり定着しました。今後も、地域が主催する美化活動などにはできる限り協力し、事業を営む地域とともにきれいな街に貢献していきたいと考えています。

社員による社会貢献活動・寄付・リユース活動

手話教室や地域イベントでの清掃活動をはじめ、さまざまなリユース活動を行なっています。リユース活動では、未使用および使用済みの切手・カード、書き損じ葉書などを集め、NPOへ寄付しています。今後は、転勤で転居をする社員に働きかけ、本などのリユース活動をいっそう推進していきます。

2009年度の寄付金額は44万228円（2008年度比13%減）となりました。また、週末や業務終了後の時間などを利用した、手話教室やボランティアなどの市民活動への自主参加人数は、手話教室延べ2,244名（2008年度比11%増）、ボランティア延べ315名（2008年度比同水準）となりました。

■ 社員によるリユース活動と実績(2009年度)

内容	金額・枚数・重さ	単位	寄付先
カレンダー	3,520	本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人 宮崎県共同基金会 ・ 財団法人 長崎県国際交流協会 ・ チャリティカレンダー展実行委員会(徳島) ・ NPO 日本災害救援ボランティアネットワーク(西宮) ・ 札幌日本大学高等学校JRC ・ 諏訪市社会福祉協議会 諏訪市ボランティア・市民活動センター ・ 名古屋市社会福祉協議会 ボランティアセンター ・ 品川区社会福祉協議会 庶務課 ・ 多摩市社会福祉協議会 多摩ボランティアセンター ・ 北区 NPO・ボランティアぷらざ ・ 静岡県ボランティア協会 ・ 長野市ボランティアセンター 他12団体
手帳・ダイアリー	894	冊	
本・CDリサイクル (BOOK MAGIC)	38,116	円	特定非営利活動法人 ジェン(JEN)
使用済み切手 (海外を含む)	1,107	kg	特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 / LIFE
使用済みカード	2,050	枚	
書き損じ葉書	8,010	枚	
未使用切手	10,230	円	
未使用カード	26	枚	
金券	2,739	円	

3.文化・芸術事業への協賛活動

大和証券グループは、2009年9月から10月にかけて全国11都市にて開催された、「大和証券グループPRESENTS 西本智実 マーラー第5番 With ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団」に特別協賛をしました。本コンサートは、世界中から注目されている指揮者の西本智実さんと、世界屈指の音楽都市であるロンドンの5大オーケストラの一角を担うロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団によるもので、多くの来場者の心を惹き付けました。また、「宝塚歌劇団貸切公演」(10月~12月)のほか、奈良で開催された「JAL唐招提寺音舞台」(9

月)などへの協賛を行うなど、さまざまな文化・芸術活動へのサポートを継続的に行なっています。

将棋や囲碁など、日本の伝統文化への支援にも力を入れています。2005年から協賛している将棋の「名人戦」、囲碁の「本因坊戦」という、将棋界や囲碁界の最高峰のタイトル戦に加えて、将棋・囲碁のインターネット棋戦「大和証券杯」にも特別協賛。将棋では、「最強戦」と「女流最強戦」の2つの公式戦を、囲碁は、「オープン」「レディース」「グランドチャンピオン」「アマチュア選手権」の合計4棋戦をサポート。これらの棋戦は1年を通じてネット上で

行われており、リアルタイムでもネット観戦ができるようになっています。週末の午後8時から始まる各ネット対局は、日本国内だけではなく、海外の将棋・囲碁ファンからも熱い注目を集めています。また、各棋戦の決勝対局では、東京・大和証券本店ビ

ル18階の大和コンファレンスホールで大盤解説会を開催し、プロ棋士による解説会を開催するとともに、優勝棋士の表彰式なども行い、ファンとの交流の場も提供しています。

■ テレビCM新シリーズ～PLAYING FOR CHANGE～

「PLAYING FOR CHANGE」は、音楽を通して世界に活気やつながり、平和をもたらすことを目的とした音楽プロジェクトです。

アメリカ西海岸を中心に活動中のプロデューサー／エンジニアであるマーク・ジョンソン氏が、カリフォルニア州サンタモニカの道端で聴いたひとりのストリートミュージシャンの歌声に感銘し、その演奏に世界中のミュージシャンたちを加えたい、音楽で世界をつなぎたいとの熱い思いからプロジェクトを立ち上げました。

世界各地の当時ほとんど無名のミュージシャン100人以上がプロジェクトに協力。世代を超えた名曲やプロジェクトのオリジナル楽曲をあたかも世界中のミュージシャンが、一緒に奏でているような仕上がりとなり、多くの人々に感動を与えるプロジェクトになっています。

プロジェクトの収益の一部は、非営利団体「PLAYING FOR CHANGE基金」を通してインドやネパールにおける難民への必要物資の提供、南アフリカでの音楽スクールやアートスクールの設立などに使われています。

大和証券グループは、このプロジェクトが表す「世界とのつながり」が、「お客様に世界とつながる、さまざまな金融サービスを提供していきたい」という考えと響きあうことから、この映像を、新しい広告として展開しています。

http://www.daiwatv.jp/group/cm/cm_main.html



4.財団・NPO等を通じた地域社会・国際社会への助成活動

大和証券ヘルス財団

大和証券ヘルス財団は、大和証券グループの設立30周年記念事業の一環として、医学研究を支援する目的で1972年に設立されました。1973年より、「中・高年者の保健・医療および福祉等」に関する優れた調査研究に対し、毎年1件当たり100万円、総数30件(総額3,000万円)の助成を行なっ

ています。2009年度で第36回を数え、贈呈者総数は982名、累計助成金額は9億67百万円となりました。

大和証券ヘルス財団

<http://www.daiwa-grp.jp/dsh/index.html>

大和証券福祉財団

大和証券福祉財団は、1994年に大和証券グループの設立50周年記念事業の一環として企業利益の社会還元を図るために設立され、毎年優れた「ボランティア活動、および福祉等に関する調査研究」に対

して助成を行なっています。2009年度(第16回)は応募数(514件)のなかで、特に優れた198件に対し4,571万円、および調査研究、応募数(17件)に対し2件に174万円の助成をしました。また、

2004年度に新設した「災害時ボランティア活動助成」は、被災地復旧のために活動するボランティアの経費を助成する目的で、2008年5月2日に発生した「ミャンマー・サイクロン災害」の被災者支援として、NPO 法人・ジャパンプラットフォーム(JPF)に

200万円を助成しました。これまでの支援助成件数は8件、700万円に上っています。今後とも福祉向上に資する活動を続けていきます。

大和証券福祉財団

<http://www.daiwa-grp.jp/dsf/index.html>

大和日英基金

大和日英基金は、英国と日本の相互理解の促進を目的として、1988年に大和証券の寄付により、英国の非営利団体として設立されました。活動の柱としては、以下のものがあります。

- (1) 日英関係への貢献に意欲的な個人・さまざまな団体のプロジェクトに助成金を贈呈。
- (2) 日英両国の学生・学術研究者に人物交流・共同研究の機会を与え、研究促進を支援。
- (3) 大和スコラシップ(奨学金)の授与。英国の学卒者を対象とし、日本語学習と職場研修の機会を与える。
- (4) 年間を通して、英国における日本理解を促進するイベントを開催。

大和ジャパンハウス(ロンドンにある基金本部)は、

英国における日英交流の拠点として、セミナー、展覧会、出版記念会などさまざまなイベントを開催しています。また、日本関連の会合のための会議室、短期滞在者用の研究スペースも備わっています。東京事務局では、日本の活動業務を担当し、日本に滞在する大和スコラー(留学生)のサポート、国内の助成申請の事務を担当するほか、その他の日英関係機関とも連携しています。設立以来、英国からの留学生受け入れ人数は延べ128名です。また、助成プログラムについては合計2,468件、助成金額は総額で31億4,500万円となっています(2010年3月現在)。

大和日英基金 http://www.dajf.org.uk/index_j.asp

大和証券グループ津波復興基金

大和証券グループは、2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・インド洋津波の被災地の復興支援として、2005年3月9日に「大和証券グループ津波復興基金」を設立しました。これは、2005年度から10年間にわたり、毎年1,000万円、総額1億円を拠出する長期的な支援です。公益信託アジア・コミュニティ・トラスト(ACT)内に基金を設立し、インドネシア、スリランカ、インドの被災3カ国で、「子どもの心のケア」「マイクロファイナンスの活用」「子どもに対する教育機会の提供」の3分野で支援活動を行う現地NGOに助成金を提供。プログラムの選定や活動状況のモニタリングはACT

事務局を務めるアジア・コミュニティ・センター21(ACC21)が、また、資金管理は住友信託銀行が、それぞれ専門性を活かして担当しています。

この基金は、一過性の義援金ではなく長期の復興支援策であること、公益信託やマイクロファイナンスなど、金融システムを活かした支援であること、ACC21が行うモニタリングによって詳細な活動状況を把握できることが大きな特徴です。

津波復興基金

<http://www.daiwa-grp.jp/csr/citizen/support/tsunami/>

<http://www.acc21.org/act/act-specialfund-daiwa.html>

ダイワSRIファンド助成プログラム

「ダイワSRIファンド助成プログラム」は、人々の「いのち」にかかわる分野(人間の安全保障分野)において、支援活動を行なっている国内NPOの助成プログラムです。

日常的な人間の安全保障の問題に対して、スタッフの方々が長期的に取り組んでいけることを目的としており、人件費や教育費を助成することが大きな特徴です。特定非営利活動法人「市民社会創造ファ

ンド」との協働で、「ダイワSRIファンド」の販売・運用による収益金をもとに運営を行なっています。

「ダイワ SRI ファンド助成プログラム」2010 年度助成先

<http://www.civilfund.org/fund23.html>

ダイワCI生物多様性保全基金(DCBCF)

ダイワCI生物多様性保全基金(DCBCF)生物多様性のホット・スポット※と呼ばれる34地域のなかから、世界7カ国の世界自然遺産周辺地域を選び、生態系の保全活動を行うプログラムです。国連開発計画(UNEP)内の地球環境ファシリティ(GEF)小規模補助金プログラム(SGP)、国連財団(UNF)による住民参加型保護区管理プログラム(COMPACT)とのマルチセクターによる、世界自然遺産地域環境保全型ビジネス支援プログラム(WH-LEEP)を形成します。COMPACTはビジネス運営のためのローン部分を、DCBCFはビジネ

スニーズ調査やコミュニティで暮らす人々のスキルトレーニングなどの費用としての助成部分を担当します。世界的な環境NGOであるコンサベーション・インターナショナルとの協働で、「ダイワ・エコ・ファンド」の販売・運用による収益金をもとに運営されています。

※ホット・スポット:「地球規模での生物多様性が高いにもかかわらず、破壊の危機に瀕している地域」(34ヶ所)のことであり、1988年にイギリスの生物学者ノーマン・マイヤーズ博士が、優先的に保護・保全すべき地域を特定するためのコンセプトとして提唱した。

ダイワ・ラッセル・GEFアジア環境技術普及支援プロジェクト

日本が持っている環境対策技術のうち、開発途上国の資材や人材で十分に作成・運用が可能な基礎的な技術をハンドブックにまとめ、普及を図るプロジェクトです。「ラッセル世界環境テクノロジー・ファンド」の販売による収益金をもとに、財団法人「地球・人間環境フォーラム」との協働で運営されてい

ます。2009年度は、タイにおいて解決が求められる生活排水対策に焦点をあて、わが国が持つ関連対策技術の導入の可能性を探る現地調査を行いました。水質汚濁や生活排水対策の現状と課題を抽出して移転可能な技術の適応可能性を今後レポートにまとめます。

海外での取組み

MBA取得をめざす学生が大和証券キャピタル・マーケッツアメリカを訪問

2009年10月23日、インディアナ大学ケリー経営学部で学ぶMBA取得を目指す学生23名が大和証券キャピタル・マーケッツアメリカを訪問し、CEO・後藤正明が主催したインフォメーション・セッションに参加しました。

セッションでは、後藤より現在のマーケット状況や、2009年の大和証券グループ営業報告書のポイント、グローバルなネットワークの構築についての解説などを行いました。

また、役員による、現在のマーケット状況や求人状況についてのプレゼンテーション。さらに、大和アセットマネジメント(アメリカ)の役員が、大和グルー

プにおけるアセットマネジメントビジネスのモデルについて概況を解説しました。

学生たちは株式・債券取引のフロアの見学も行い、最後の質疑応答ではゲストの間で活発なやりとりが交わされるなど、充実したセッションプログラムとなりました。



現地の貧困家庭へ食料品を配布／シンガポール

大和証券キャピタル・マーケッツシンガポールリミテッドでは、2009年4月に現地の貧困家庭に食品などの生活必需品を届けるチャリティイベントを実施しました。

米や油、缶詰、食券などを詰めた「バッグ」をひとり親家庭を中心とする53家庭へ配布するため、事前に社員に対し寄付を呼びかけたところ、1家庭あたり150ドル相当の「バッグ」を贈ることができる予算が集まりました。これは、当初予定していた1家庭あたり100ドルを大きく上回るもので、社員の関心の高さを表すものだと考えています。

用意された食料品を分けてバッグに詰め、配布する作業にも、多くの社員が積極的に参加しました。普段は違う支店で働く社員やその家族、友人が見事なチームワークで作業を進行しました。大和証



券キャピタル・マーケッツシンガポールリミテッドの岡裕則社長も、バッグの配布作業などに加わりました。

バッグを受け取った地元の人たちからは、多くの感謝の声が寄せられました。参加した社員からも、「次回も参加したい」との声が聞かれ、「CSR活動へのさらなる注力」を掲げた新年度の始まりにふさわしい取組みとなりました。

社員の子どもたちを招きクリスマスパーティを開催／ヨーロッパ

2009年12月、大和証券キャピタル・マーケッツヨーロッパリミテッドで、社員の子どもたちを招いてのチャリティ・クリスマスパーティが開催されました。

このパーティは、2008年に初めて開催され大好評を得たもので、今回も企画が発表されてわずか1時間で定員がいっぱいになるという人気ぶりでした。

パーティは、2回行われ、それぞれ30人の子どもたちが家族とともに参加しました。子どもたちの年齢は1歳から16歳までとさまざまでしたが、ゲームやダンスにチャレンジしたり、フェイスペインティングや工作を体験したりと楽しい時間を過ごしました。もちろんサンタクロースも登場し、子どもたちに手紙とプレゼントを手渡す場面もありました。終了後、子どもたちや家族からは、パーティの運営を担当したスタッフへのお礼の言葉が数多く寄せられました。

パーティ参加者から寄せられた寄付は、チャリティ



委員会を通じて、戦争被災地の子どもたちへの支援を行うイギリスのチャリティ団体「ウォー・チャイルド」、同じくイギリスの子ども向けホスピス「デメルザ・ハウス」へと届けられます。